

議長	副議長	事務局長	副参事	係長	係員
○	○	○	山張	中嶋	室

令和5年11月24日

三沢市議会
議長 堀 光 雄 殿

三沢市議会

議員 西 村 盛 男
// 遠 藤 泰 子
// 田 嶋 孝 安



○ 議員個人研修の復命について

先に議員個人研修を行った結果について、次のとおり復命いたします。

記

1. 期 間 令和5年10月2日（月）～10月4日（水）

2. 観察先 (1) 香川県善通寺市
(2) 香川県多度津町

○ 3. 観察事項

- (1) 香川県善通寺市
 - ・「子育て広場くすくす」について
 - ・子どもの居場所づくり事業について
- (2) 香川県多度津町
 - ・コミュニティ通貨まちのコイン「どっつ」について

4. 概 要 別紙のとおり

以上



(別紙)

【視察場所】

善通寺市子ども家庭支援センター、地域子育て支援拠点施設「子夢の家」等

【視察事項】

- ・「子育て広場くすくす」について
- ・子どもの居場所づくり事業について

【善通寺市対応者】

善通寺市議会 宮武 昌史 副議長

善通寺市保健福祉部 中山 淳 部長

善通寺市保健福祉部子ども課 北谷 英樹 課長 ほか

【説明者】

NPO法人 子育てネットくすくす 草薙 めぐみ 理事長
(善通寺市子育て支援コーディネーター)

【善通寺市の概要】

昭和29年、1町4村が合併して市制を施行し、「善通寺市」が誕生する。現在市内には、陸上自衛隊第14旅団、独立行政法人国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター、大学、国・県の出先機関等が所在しているなど、地方行政の中心地的機能を有している。

(人口3万426人、面積39.93km²)

【説明の概要】

1. NPO法人 子育てネットくすくす

約30年前、結婚を機に善通寺市に移住した草薙理事長は、地縁・血縁のない地域の中で、様々な不安や困り事に直面しながら子育てをしていた自身の経験から、一人でも多くの子育てをするパパやママの不安や負担感、孤立感等を解消するべく、育児サークルの主宰を経て、NPO法人を設立。現在は、職員に加えて学生スタッフ(ボランティア)や子育てサポーター等も受け入れ、地域子育て支援拠点事業(2か所)等を市から受託しているほか、子ども食堂&パントリー事業や児童発達支援事業、放課後等デイサービス(2か所)など多数の事業を手掛けている。これまで、内閣府特命担当大臣賞ほか、数多くの賞を受賞するなど、子ども・子育て支援分野では、全国的にも先駆けとなる取り組みを展開してきた。

2. 善通寺市子ども・家庭支援センター

平成19年度、「児童福祉」と「母子保健」の機能が当該施設に集約されたことにより、子育て家庭が一体的なワンストップサービスを受けられるようになった。また、当該センター内の各施設（事業）は、NPO法人や民間企業等が市から委託を受けて運営している。さらに、各専門職スタッフ同士が垣根を越えて連携することで、様々なケースに対応しながら、子育て家庭を包括的・継続的に支援できる体制を構築している。

※同センターでは、主に以下（1）～（4）の施設・サービスを利用することができる。

（1）子育て広場くすくす（善通寺市つどいの広場事業）

子育て中の親子や地域の方々など、自由に誰でも利用可能なスペースを提供。親子の遊び場としてはもちろん、友達づくりや悩み相談の場、地域の方々同士が交流する場としても活用されている。近隣大学の学生が授業の一環としてボランティア活動（実習）を行ったり、乳幼児と中学生とのふれあい授業を行っているほか、言語聴覚士による専門的な発達相談等も実施している。令和4年度は、延べ7,794名の親子が利用するなど、好評を得ている。

（開設時間：平日10時～16時）

（2）子どもライブラリー

読書・食育・運動を三本柱とした子育て支援施設。0歳～小学校低学年向けの絵本や児童書等が充実しており、貸し出しが可能。また、知育玩具や遊具も設置されており、雨の日でも親子でのびのびと遊べる施設である。さらには、バラエティ豊かな読み聞かせやリズム体操、食育教室など、多種多様なイベントも開催されている。

（開館時間：平日・土曜9時～19時　日曜・祝日9時～18時）

（3）すまいる（障害児通所支援事業）

児童発達支援（主に未就学児対象）として、障がいのある児童に対する支援を行う身近な療育の場として位置づけ、障がいのある児童一人ひとりに合った支援を行っている。放課後等デイサービスとしては、障がいのある児童に対して生活能力の向上のために必要な支援、社会との交流を図っている。また、医療的ケア児の受け入れも可能となっている。

（4）利用者支援事業（子育て支援コーディネーターを2名配置）

子育て家庭のニーズに合わせて、幼保施設や地域の子育て支援サービスなど

から必要な支援を選択して利用できるように、情報の提供や個別相談・援助を行っている。また、善通寺市母子保健事業や医療の福祉士といわれるメディカルソーシャルワーカー等、他機関とも連携しながら、4カ月検診、1歳半検診、マタニティ教室、すくすく教室（生後6か月まで）等を実施し、大きな成果をあげている。

（情報提供・相談件数：1, 885件、連絡調整数延べ834件／R4年度）

3. 子夢の家（地域子育て支援拠点事業）

「子夢の家」は、民家を改装し、広い芝生には様々な遊具や砂場が設置された戸外でのびのびと遊べる子育て拠点施設であり、親同士の交流、情報交換の場としても活用されている。また、様々な困り事に対応するため、助産師、弁護士等との専門家相談日も設けている。地域の方々、学生、高齢者施設との交流も盛んである。また、教育部局と連携し、不登校児童等を対象に、子夢の家にて学習等を行うことで出席認定となる制度が開始（令和5年10月～）。

この他にも、子どもの居場所づくり事業として、近隣大学生や地域ボランティアの支援を受けながら、子ども食堂を月1回開催（令和4年度延べ利用者数430名）。また、コロナ感染拡大以降、生活困窮世帯に対する食料品・紙おむつ・粉ミルク・衣類・文具等を配布する「ほっこりパントリー」事業を行っている。これら配布品については、助成金だけでは賄いきれないため、地域の方々・企業等からの寄付及び提供品が大きな支えとなっている。



（NPO法人 子育てネットくすくす HPより）

【所感】

善通寺市子ども・家庭支援センターには、子育てに関する窓口機能・サービス（検診、相談、情報、遊びなど）が集約されており、様々な困り事をワンストップで解決できる点など、子育て家庭にとって非常に利便性が高く、気軽に

利用しやすい、魅力的な施設であると感じました。また、施設内の「子育て広場くすくす」や「子どもライブラリー」等は、いずれも民間事業者ならではの柔軟な発想と効率的、効果的な運営がなされているという印象を強く受けました。さらに、NPO法人子育てネットくすくすが運営している「子夢の家（地域子育て支援拠点事業）」では、草薙理事長らと意見交換をする中で、教育部局と連携し、不登校児童等を対象に、子夢の家にて学習等を行うことで学校において出席認定となる制度を実現したり、地域の方々や企業等から協力を得ながら子ども食堂を運営したりと、その柔軟な発想と行動力に感銘を受けました。

三沢市においても、「子ども・子育て環境の充実」は最重要課題であると考えます。今回の先進事例を参考としながら、当事者（子育て家庭や子どもたち）の目線を大切にした子育て支援・行政サービス、今後の施設運営のあり方など、今回の視察の成果を活かすため、しっかりと取り組んでまいりたいと思います。



(別紙)

【視察場所】多度津町役場

【視察事項】

- ・コミュニティ通貨まちのコイン「どっつ」について

【多度津町対応者】

多度津町議会 小川 保 議長
多度津町議会 金井 浩三 副議長
多度津町政策観光課 土井 真誠 課長
多度津町政策観光課 高橋 さおり 係長
多度津町政策観光課 高嶋 晃史 主任主事

【多度津町の概要】

多度津町は、香川県の中部に位置し、南は讃岐平野、北は風光明媚な瀬戸内海国立公園に面している。古くから港を中心に発達し、明治に入ってからは四国最初の鉄道が開通したことで、鉄道と港の利点を活かした交通の要衝として発展してきた。

(人口2万1,376人、面積24.39km²)

【説明概要】

1. まちのコイン（アプリ開発・運営：面白法人カヤック）

「まちのコイン」は、スマートフォンのアプリをダウンロードし、QRコードを介して非接触でコインの利用、獲得が可能な地域電子通貨。このアプリ内で使用するコインは、法定通貨へは換金不可だが、人と加盟店・加盟団体との間でやり取りすることができ、地域内外の人のつながりをつくり、良好な地域コミュニティ形成が期待できる。現在、国内総登録ユーザー数は約7万7,000人、全国23地域で利用されており、約3,000の店舗・団体等が加盟している。（令和5年10月時点）

2. コミュニティ通貨まちのコイン「どっつ」について

人口減少・高齢化による「地域力低下」という課題の解決や、新型コロナ終息後における地域経済・コミュニティの回復を促進するため、町内外のつながり強化や関係人口を創出する仕組みづくりの一貫として導入を決定。

多度津町が導入したコミュニティ通貨「どっつ」は、お店のちょっとしたお手伝いごと（掃除、イベント設営、SNSでの宣伝等）やSGDsにつながる活動（マイ箸持参、ゴミ拾い等）に参加した対価として、アプリ上で獲得でき

る。獲得した「どっつ」は、お店やまちの施設、イベント等に用意された「お得な商品」や「特別な体験」などに使用することが可能。お金では買うことができない「うれしい体験」を通じて、地域内外問わず人と人とのつながりながら、多度津町のファンを獲得していき、将来的には地域全体の暮らしを豊かにすることを目指すべき将来像としている。



3. 効果と課題

(効果)

(1) コミュニケーションの創出

ユーザーは、約1年半で1,200人を超える、ユーザー同士やユーザーとスポット（加盟店等）による交流が生まれてきている。

(2) 関係人口の創出

ユーザーの内、約3割が町外在住者であり、町外の人々が多度津町の魅力に触れるきっかけづくりという点で、一定の効果が見られる。

(3) 地域経済の活性化

「どっつ」を使えることを理由にお店やイベントへ訪問する方も一定数いるため、消費活動の促進につながっている。また、「まちのコイン」の特徴の一つであるゲーム要素（ランキング形式、スタンプラリー等）を楽しむ方も一定数おり、日常的にゲーム感覚で街中を巡っている方もいる。

(課題)

(1) 利用者の伸び悩み

- ・「どっつ」は、まだ町内外に広く浸透している状況とは言えないため、日常的に利用してもらえるような仕掛けが必要。

(2) 取り組みの持続性

- ・一過性とならないよう、ユーザーとスポット、双方の熱量を継続的に保つことが必要。
- ・国の交付金を活用してスタートさせた「どっつ」であるが、予算面での課題を含め、今後どのように持続可能な運営体制を構築していくかが課題。

4. 今後の取り組み

多度津町では、市総合戦略におけるKPIとして、「どっつ」利用者数を令和6年度までに2,000人に対することを掲げている。

(1) 幅広い年代への浸透（利用者増に向けた取り組み）

- ・香川大学の学生団体と協力し、「どっつ」の利用イメージがわかりやすく伝わる動画の作成。
- ・ふるさと納税寄付者や多度津町とつながりのある方々への周知。
- ・高齢者スマホ教室等において「どっつ」の利用方法、魅力を周知。

(2) スポット数を増やすための取り組み

- ・人が日常的に集まる店舗、企業、団体等へ訪問し、スポット登録を促す。
- ・利用者の少ない自治会や地域活動団体等に対し、説明会を実施。
- ・参加店舗、企業等の横のつながりを活用し、スポット拡大を図る。

(3) 魅力的な体験を増やすための取り組み

- ・「もらう体験」、「あげる体験」とともに、気軽に参加できるものを増やす。
- ・アプリ上での「抽選会」や「メッセージ機能」等の機能を活用し、町外の利用者獲得に取り組む。
- ・集中的に利用頻度を高めるために、利用回数等を利用者同士で競うグラップリの開催や、グルメや健康をテーマとしたスタンプラリーの開催を実施予定。

【所感】

デジタル地域通貨は、地域経済の活性化はもとより、町内外の多世代のつながり強化のほか、交流人口増にも好循環を生み出すなど、地域全体を豊かに、より魅力的にしていく可能性を秘める取り組みであると感じました。

また、運用にあたっては、空き缶回収等の協力の対価として、賞味期限の近いお得商品と「どっつ」を交換するなど、生活に密着した利用が可能であり、「地域に貢献したい」、「人の役に立ちたい」といった経済外的な感情にどれだけ遡及できるか、そして、どれだけ地域全体を巻き込めるかという点が重要であると感じました。一方で、継続していく中で、運用コストが課題となり撤退してしまうケースも見られるとのことであり、導入にあたっては持続可能な運用体制を整えることが必須であると感じました。

いずれにしましても、人口減少・高齢化による「地域力低下」や、新型コロナ終息後における地域経済・コミュニティの回復は、多くの自治体と同様、三沢市においても大きな課題となっています。様々な方策を模索しながら、今回の視察において学んだ先進事例については、導入可能なものは導入に向け、鋭意活動してまいりたいと思います。

